

GU'DAY

群馬大学情報誌
[グッデイ]



vol. 7

2008 • Autumn



長野県北相木村のカラマツ林に立つ松橋診療所長(左)と石川病院長



斬新なデザインの太田キャンパス

「GU'DAY」は、「GOOD DAY」の表音(日常のあいさつ=こんにちは・さようなら)で、「地域とのふれあい・コミュニケーション」を示すとともに、「GU (Gunma University) のDAY (時代)」も意味します。

2 GU'DAY TALK

[松橋和彦氏に聞く]

無医村に飛び込み、地域医療と地域再生

4 CAMPUS WATCHING

地域、産業界、大学の協働がスタート

[太田キャンパス

(テクノプラザおおた)]

ベストティーチャー賞最優秀賞が決定

6 TOPICS

- 教職大学院スタート
- 重粒子線がん治療シンポジウム
- 地域産業界貢献へ連携
- 4大学の連携大学院プログラムがスタート

8 GUNDAI最先端

ケイ素科学国際教育研究センター

世界でも稀なベースで論文執筆

10 ひらく・むすぶ・地域と大学

群馬大学TLO

- 知的創造サイクル活発化
- 技術移転へ向け活発化

フリーペーパーづくり

12 すばつと散策

抜群の自然環境が満喫できる
森林リゾート

[北軽井沢研修所と周辺]

13 大学遺産

考古学界から注目される
尾崎コレクション

14 あのときGUNDAI

桐生高等染織学校創立から
工学部誕生へ

GU'DAY

グッデイトーク／松橋和彦氏に聞く（聞き手／医学部附属病院長 石川 治）

TALK

必要とされるのは、
多科横断的な診療技術

石川 地域医療を志したのはいつですか？
松橋 高校時代。宮沢賢治に強く影響されました。農学校

無医村に飛び込み、地域医療と地域再生

教員となった賢治は、子どもたちには「卒業後は、帰村して立派な農民になりなさい」と教えておきながら、自らは月給取りをしている。意にそぐわなかったのか教師を辞めて、自耕自炊の生活を始める

賢治へのあこがれですね。「自分は在野だ」と。海外医療協力も考えましたが、自分の能力を最大限発揮できる国内で等身大のモデルをつくろうと思いました。最終的に国内に決断。JICA（国際協

力機構）からの見学者も多いので、間接的な国際協力はできているかもしれません。石川 佐久に決めたのは、何故ですか？
松橋 大学時代に、人口1000人くらい、国鉄（現JR）

が走っていない、リゾート施設がない、国道がない、雪がある程度降る…そんないかにも田舎らしい村を探し回りました。イメージに合う場所は意外に少なく、長野では南北の相木村だけ。地図片手に3日、

間ほど歩き回って決めました。

石川 地域医療の志に対する周囲の反応はどうでした？

松橋 「そんな場所で自分をアップデート（日々更新）していくのか」というもの。しかし医学は本来プラグマティック（実用的）な学問だから、役に立つことが原点。山村で必要とされるのは最先端の医療技術ではなく、もっと別のものなのです。

石川 中国留学は、西洋医学だけでは不十分だと思ったからですか？

松橋 「あいつはもうおしまいだ」と言われました（笑）。客観医学のみでは捉えきれない、主観的な「やまい」を癒



松橋 和彦（まつはし かずひこ）

【略歴】1963年栃木県生まれ、太田高校出身。1989年群馬大学医学部医学科卒。1990～94年にかけて中国留学、漢方を学ぶ。1998年佐久総合病院内科に勤務、北相木村診療所所長となり、現在に至る。2004年にはNPO法人北相木りんねの森設立、代表に就任。2008年、群馬大学同窓生表彰を受ける。

聞き手 医学部附属病院長 石川 治

せる医学だと考え、漢方を学ぼうと決意しました。地域医療には内科・外科・皮膚科・心療内科・リハビリ科等多科横断的な診療技術が必要となりますが、漢方も有効な治療手段のひとつになるだろうと考えたのです。

地域医療は、 地域の一部

石川 診療所にはどんな患者さんが多いですか？

松橋 それこそ何でもありです。慢性疾患のフォローから

がんの緩和ケア、排尿障害のコントロールやブロック注射の方も多いですね。往診も含め延べ年間6000人ほどの患者さんが来ます。診療所にはCTはもちろん、レントゲンやエコーもあります。

石川 すると聴診、打診、視

市街地に輝く瀟洒なデザイン 地域、産業界、大学の協働がスタート

〔太田キャンパス（テクノプラザおおた）〕

2007年4月に発足した工学部生産システム工学科と大学院生産システム工学専攻。初年度は仮校舎でのスタートとなりましたが、2008年4月に太田キャンパスが完成しました。新キャンパスが入居しているのは「テクノプラザおおた」。建築雑誌にも取り上げられた斬新で瀟洒なデザイン性が注目されている太田キャンパスを紹介しましょう。

太田市街のメインストリートから数十メートル北に移動するだけで、周囲は緑豊かな住宅街。「テクノプラザおおた」は太田小学校や児童センターにも隣接し、喧騒とは無縁の落ち着いた場所に位置しています。本町公園の跡地であり、1963年に移転するまで県立太田女子高校があった場所です。

一目見て、うねるような壁面デザインにまず唖然。一度見たら忘れられない印象的な意匠は、長谷川逸子・建築計画工房が設計したものです。

L字型・5階建ての建物は、研究室が入った群馬大学大学院研究棟（東側）と、市民や学生、企業人らが共同研究やセミナー・講義などを行うことができる産学連携棟（南側）から構成されています。建物自体は太田市所有で、群馬大学は大学院棟を賃借する形式です。

産学連携棟はコミュニケーションテラス、市民交流室、市民ワークショップ、CAD・CAM室などを備え、生産シ

テム工学科の授業もここで行われています。

コミュニケーションテラスは、セミナーや講義の合間に参加者や学生、市民らが自由にくつろぎ交流するスペース。緩やかな変型を繰り返しつつ、建物を包み込んでいます。

テラスを角度のさまざまなスクリーンとフラットバーが囲み、微妙に表情を変えていく光の角度。外観はあたかも3Dモデルのように近未来を感じさせるもの。一方、テラスにたたずむとほかに類を見ないほど斬新なデザインでありつつも、不思議と居心地が良く感じられます。

また、産学連携棟1階にある機械工作室にはマシニング旋盤、CNC旋盤などをはじめとする最新鋭機器が続々と備えられ、来春から稼働する準備が進行中です。こうした機械はすべて企業からの寄附によるもので、地域・企業の期待の高さが窺われます。

大学院棟は各階ごとにピンク、グリーン、パープルなど基調色に変化。トイレの表示デザインに至るまでシンプルにデザイン化されています。

L字型の建物に囲まれた市民交流広場には芝生が植えられ、憩いのスペースとしても最適。講義の合間、昼休みには寝転がってくつろげそうです。

現在、太田キャンパスで学ぶのは、夜間主コースを含め学部生と大学院生合わせて約130人ですが、2年後に学年進捗が終了すると、この2倍程度になりま

す。夜間生の学生のほとんどは地元企業の技術者だといいます。地域や地元産業界にとっては、将来に向けて期待が膨らんでいるのではないでしょう。

キャンパス南側にある東武線太田駅まで徒歩5分。桐生キャンパスとの移動も車で30分と、便利です。また、キャンパスと隣接して太田行政センター、東には富士重工工場、南には市役所、西には県立太田高校・太田女子高校など産業、行政、文教の中心エリアとなっています。太田まつりには学生らが神輿かつぎに参加。さまざまな面で地域とのつながりが深まっていくことでしょう。

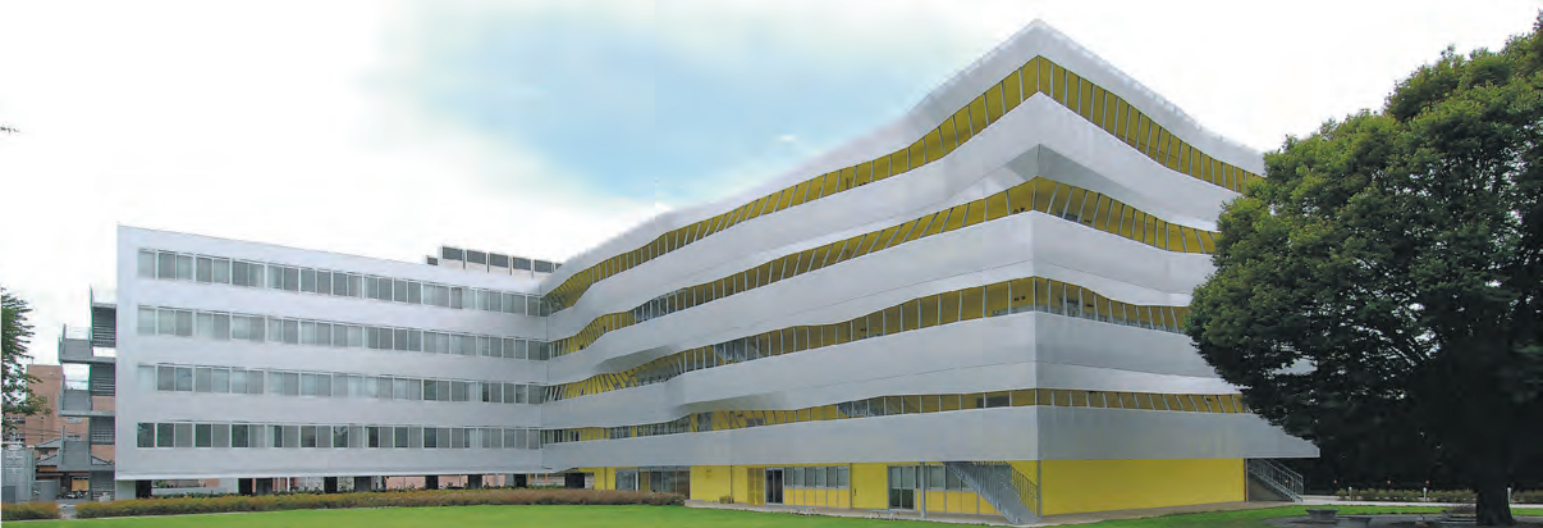
① 瀟洒：さっぱりして気がきいているさま。俗っぽくなくしゃれている。

② CAD・CAM：コンピューターを用いて建築物や工業製品の設計・製造を行うこと。

③ マシニング旋盤：CADで作製した3Dデータから数値プログラムを制作し、そのプログラムを利用して切削用の工作機械で座標位置を制御しながら3次的に立休物を製作。

④ CNC旋盤：コンピューターで数値制御された旋盤。





トイレ表示のデザイン



▲最新鋭機械が並ぶ機械工作室
◀ 独特の変型を描くコミュニケーションテラス



産学連携棟で行われている生産システム工学科の講義風景

平成19年度群馬大学 ベストティーチャー賞 最優秀賞が決定

ベストティーチャー賞最優秀賞の選考にかかる公開模擬授業が5月9日、大学会館ミュージアムホールで行われました。

教育実践に顕著な成果をあげた教員に対し、その功績を表彰するとともに公開模擬授業を通して群馬大学の教員および学生に周知して、群馬大学教員の意欲向上と大学教育の活性化を図ることを目的としたものです。

今年で2回目となる公開模擬授業は、各学部などから推薦された優秀候補者11人から選抜された6人の最優秀賞候補者により実施。聴講した学生、教職員など約80人は最優秀賞候補者の熱の入った講義に聞き入っていました。

模擬授業終了後、学長、理事、学部長などで組織する審査委員会において選考。審査の結果、最優秀賞と優秀賞が決定、学長から表彰状と副賞が授与されました。

受賞者は次の通り。

【最優秀賞】

社会情報学部推薦 寺石 雅英 教授

【優秀賞】

教養教育推薦 服部 健司 教授

教養教育推薦 寺石 雅英 教授

教養教育推薦 内田 陽子 准教授

教育学部推薦 齋藤 理生 講師

教育学部推薦 豊泉 清浩 教授

医学部医学科推薦 金澤 崇 助教

医学部医学科推薦 鯉淵 幸生 助教

医学部保健学科推薦 高山 清茂 教授

工学部推薦 板橋 英之 教授

工学部推薦 齋藤 三郎 教授

工学部推薦 原野 安土 准教授

全国19大学のひとつとして期待

教職大学院スタート

教育学研究科は、従来の修士課程(学校教育専攻・障害児教育専攻・教科教育専攻)を改組し、専門職学位課程教職リーダー専攻(教職大学院)、修士課程障害児教育専攻、教科教育実践専攻を2008(平成20)年4月1日付で設置しました。

学校教育専攻を発展的に改組し設置したのは、学習指導や生徒指導などの実践的な指導力を備えたスクールリーダーや新任教員(中核的若手教員)の養成を目指す児童生徒支援コースと、現職教員を対象にした学校運営主体のスクールリーダー(中核的中堅教員)の養成を図る学校運営コース。教職大学院は、教員養成に



記念式典で講演を行った国立台北教育大学の黄雅文教授

「教職リーダー専攻の目的は高度専門職業人の育成。具体的には課題を分析・把握する力、対応する力、完成する力、評価し再考察する力が必要」と語ったのは、教育学研究科の佐藤浩一教授。また、文部科学省高等教育局専門教育課の藤原章夫課長は「教職大学院は全国から注目されるま

特化した専門職大学院として、2008年度から全国19大学(国立15大学、私立4大学)に設置されたもの。関東地方の国立大では東京学芸大学と群馬大学のみです。

開設を記念して8月1日には関係者が出席し、大学会館(ミューズホール)で記念式典、アルバート邸で祝賀会が行われました。

「教職リーダー専攻の目的は高度専門職業人の育成。具体的には課題を分析・把握する力、対応する力、完成する力、評価し再考察する力が必要」と語ったのは、教育学研究科の佐藤浩一教授。また、文部科学省高等教育局専門教育課の藤原章夫課長は「教職大学院は全国から注目されるま



県民会館で開かれたシンポジウム

世界最先端の治療法が切り開く可能性を討論

重粒子線がん治療シンポジウム開催

群馬大学が来年度スタートさせる重粒子線がん治療に、県内外から大きな期待が寄せられています。こうした中、施設の概要と重粒子線治療の最新動向を広く紹介しようと、7月10日に県民会館で公開シンポジウム「重粒子線がん治療―群馬医療最前線―」(群馬大学と県の共催)を開催しました。

重粒子線照射施設は現在、昭和キャンパスで建設が進められていますが、がんを切らずに治療する最先端装置。国内で3カ所目ですが、小型普及機としては初。それだけに期待も高まっています。

シンポジウムでは、鈴木守学長や大澤正明知事のあいさつに続き、医学系研究科の中野隆史教授の基調講演が行われました。難治性のがん治療に対する世界最先端の治療法を開発するとともに、放射線治療医や医学物理士といった人材養成も急務と説明。

同じく基調講演した放射線医学総合研究所の辻井博彦理事は「重粒子線は従来の放射線治療よりも病巣に対する線量の集中性に優れ、理想的な治療」と話しています。

パネルディスカッションでは、重粒子線医学研究センターの小澤滯司センター長がコーディネーター。県医師会の鶴谷嘉武会長、前橋商工会議所の曾我孝之会頭、医学部附属病院腫瘍センターの鹿沼達哉センター長ら5人が出席。県全体のがん医療水準を世界最先端へ飛躍的に向上させることや、世界中から患者を受け入れることによる地域経済活性化などが討論されました。

シンポジウムの出席者は約1200人。医療相談コーナーには予定を上回る人々が訪れるなど、期待の高さが窺われました。



地域産業界貢献へ広範な連携 足利工業大学、(株)ミツバと連携協力締結

地域に根差した研究活動や共同研究に取り組んできた群馬大学。地域産業界への貢献を広げるためには、大学間連携も重要なものとなります。

2007(平成19)年12月には、「研究・産学連携戦略推進機構」を設置し、併せて産学連携活動と知的財産の技術移転活動を一層強化するために群

馬大学TL O(詳細は10～11ページ)を設置しました。

活動の一環として、両毛地区の工業大学として先進的な産学連携に取り組み足利工業大学と2月7日、連携協力について協定を締結しました。

に連携協力し、知的財産を盛んに活用することで地域発展に貢献しようという試みです。また、自動車部品メーカーのエクセレントカンパニー(株)ミツバと7月18日に包括提携を結びました。

協定は富士重工業(株)に次いで2社目の提携。また、学部門協定ではサンデン(株)、三洋電機(株)、太陽誘電(株)、チソ(株)の4社と提携しています。

大学と企業が包括提携を結び、それを組織内外に周知することにより、共同研究・受託研究の推進、研究者の交流、インターシッピングの促進などスムーズな活動の進展が可能となります。

(株)ミツバは工学部のある桐生市に本社を構え、海外にも30カ所以上の拠点を築くグローバル企業。

工学部、医学部、大学教育センターなどの共同研究の推進、インターシッピングによる学生の研修に加え、現在では「アジア人財資金構想」の主幹企業を務めています。

ITスペシャリストを育成 共同大学院も視野

群馬大学は茨城大学、宇都宮大学、埼玉大学と連携し、ITスペシャリストを育成する「4大学連携先進創生情報学教育研究プログラム」をスタートさせました。既にインターネ

ットによる遠隔授業が始まっています。4大学それぞれ得意の情報工学教育を担うことで、単独の大学院では達成できない高度で実践的IT教育を目的としています。

また、既存の連携大学院と大きく異なる点は、各大学院が同時に「人間創生情報学コース」を開設することで、大学ごとに単位認定できるように設定したこと。各大学のプログラムを選択した院生は4大学院で開講される科目を選択し、それがすべて終了単位として認定されます。プログラムを取りまとめている大学院工学研究科の大澤研二教授によると「講義では映像、音声がりリアルタイムで流れ、質



4大学連携プログラム開講式

疑応答も可能。スクリーンも実施し、学生や教員のふれあいの場も用意しました」

群馬大学は、「コンピュータアーキテクチャ」とOS(オペレーティングシステム)などの講義を担当。それぞれがハイレベルな得意分野を担当することで、連携大学院のモデルケースとしても期待されています。

現在、国内では上級ソフトウェア開発技術者などITスペシャリスト人材が慢性的に不足。こうした現状を受け、4大学は2005年から連携大学院を模索し、翌年に合意していました。来年度からは、「社会創生情報学コース」も設置予定。今後は2010年度にも制度化される共同大学院の設立も視野に入れ、ノウハウを蓄積していきます。

4大学の連携大学院プログラムがスタート

ケイ素科学国際教育研究センターが スタート

GUNDAI

最先端

大学院工学研究科は2008年3月、ケイ素科学国際教育研究センターを設置しました。ケイ素科学の教育研究拠点は国内で初めての取り組みとして注目を集めています。化学、生物科学、応用物理学など既存の学問分野を超えた新しい学術領域「ケイ素科学」を築くための教育研究拠点「ケイ素科学国際教育研究センター」を紹介しましょう。

無限に広がる ケイ素の可能性

ケイ素は地殻の約60%を占め、石、岩石、砂などに含まれる物質です。その性質は炭素に近く、しかも酸化物（二酸化ケイ素）は固体なので、二酸化炭素のように空气中に拡散して環境問題となることはありません。ケイ素は重要元素と考えられるようになってきましたが、これはジャンルの垣根を超えた多様な実用化の可能性を秘めているからです。



石から酸素を取り除いたケイ素

これまでケイ素化合物やケイ素材料の研究は化学、半導体などいくつかの分野で個別に発展。群馬大学では1960年代からケイ素研究がスタートし、教育研究が盛んに行われてきました。しかし、ケイ素化合物の特性を生かし、私たちの生活にもっと活用する



ケイ素科学国際教育研究拠点
(工学部8号館)

にはどうすればよいのでしょうか。物理、化学、マテリアルサイエンス、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーなど多様な分野でケイ素化合物を多角的に研究し、研究者・技術者間交流を活性化にすることが重要だと考えられます。

また、県内には信越化学工業(株)やモメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ、ジャパン合同会社(旧G.E.東芝シリコン)など国内で圧倒的シェアを誇り、国際的にも先端を行くケイ素関連企業が多く存在している点も見逃せません。

国内初、ケイ素の 教育研究センター

こうした中、国立大学法人化に伴う群馬大学中期計画では、重点領域として「炭素及びケイ素の元素特性を活用するナノ材料の創製と機能制御」が取り上げられました。2005～07年度は、文部科学省特別教育研究経費により連携融合事業「ケイ素を基軸とする機能性材料の開拓」を行い、ケイ素化合物の

可能性を示しました。地域特性と、群馬大学がこれまで蓄えてきたケイ素に関する教育研究の実績を踏まえて、一層推進すべく設立したのが「ケイ素科学国際教育研究センター」です。

センター長は久新莊一郎教授。物質変換科学教育研究部門、元素機能・物性解析教育研究部門、光ナノ電子材料教育研究部門、医学・生物科学教育研究部門の4部門、計31人の教員が参加しています。学際的・国際的なケイ素科学の研究活動を実施し、新たな教育システムを築くことで、国際的にも活躍できる若手研究者の育成を図ります。

さらに教育研究活動をより強力に進めるため、国内外の研究者や産業界にも協力や研究参画を求めました。ケイ素系分子デバイス開発や物質表面におけるケイ素化合物の物性解析などの研究を進めている理化学研究所の玉尾皓平所長をはじめ、学会、産業界の第一人者6人を客員教員として招聘しています。

教育については、いろいろな専攻の学生が自由に受講できるようカリキュラム化を図っています。今年度はケイ素科学特別講義や集中講義などを開講、引き続き充実を図っていく予定です。



久新莊一郎センター長

群馬大学TLO

—知的財産を生かすため、技術移転マネジメントを強化—

知的創造サイクルを活性化させる

TLOとは聞きなれない言葉ですが、Technology Licensing Organizationの略。大学研究者の研究成果を特許化し、民間企業等へ技術移転する「技術移転機関」のことです。

技術移転によって企業に新規事業を創出し、収益の一部を新たな研究資金として大学に還元します。これは大学での研究に一層の活性化をもたらす原動力となります。うまくいけば知的創造サイクルが好循環となります。産と学の「仲介役」を果たす産学連携の中核をなす組織と言えるでしょう。

群馬大学は2007年12月に「研究・産学連携戦略推進機構」を設置するとともに、「群馬大学TLO」を設置。「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」に基づき、文部科学省と経済産業省からも承認されました。群馬大学のような大学内部型のTLOは全国で5例目です。

群馬大学TLOは本学の知的財産の創出、取得、管理、活用を行い、研究成果を広く社会に還元することを目的としています。

蓄積される大学の知的財産をいかに地域発展に役立てるか

立ち上げの経緯を見てみましょう。群馬大学が文部科学省の「大学的財産本部整備事業」に採択されたのは2003年度。以来、学内の特許出願件数は急増し、年間100件近くに及ぶなど活況を呈してきました。蓄積された研究成果を発掘し、最適な企業にライセンスングすることが急務となったのです。また、新たに生み出された研究成果を適正に市場評価をしたうえで、効率的な権利化が切実に求められるようになりました。

一方、首都圏北部地域の企業と幅広く産学連携を進めていくため、2006年度から経済産業省関東経済局支援のもと、茨城、群馬、埼玉、栃木の各自治体、産業支援団体が参加して地域連携、新技術

移転について検討が進められてきました。

2007年度は具体的な活動として首都圏北部4大学（群馬・茨城・宇都宮・埼玉の各大学）が新技術説明キャラバン隊を結成し、各地で技術移転に向けた講演活動などを開始しました。

他大学と連携し首都圏北部地域の産学連携を促進・拡大するために、研究・知的財産本部一体型内部TLOの検討が本格化し、2007年12月の承認となったのです。

技術移転へ向けて活発化

次に主な活動内容を紹介します。

(1) 知的創造サイクルを回して、社会貢献、研究費の獲得、研究インフラの整備、学生への産学連携の取組み教育を実施。特に、新技術移転を通して、地域産業、企業のイノベーション活動の支援と促進を行います。

(2) 首都圏北部地域の産学連携の一層の活発化、新技術の創出と移転を通じて、地域産業の発展・研究の活性化に

貢献する。さらに、地域の大学と連携を図り、技術移転活動を強化します。

(3) 群馬県や関連する市町村と共同で、地域企業の育成と技術移転を積極的に実施します。

(4) 大学発ベンチャーの知的財産、技術支援を行います。

(5) 学内教職員、地域産業界に対して知的財産に関する啓発を行います。

こうした活動の一環として2008年2月7日には足利工業大学と知的財産の活用に関する大学間連携について協定を締結しました。

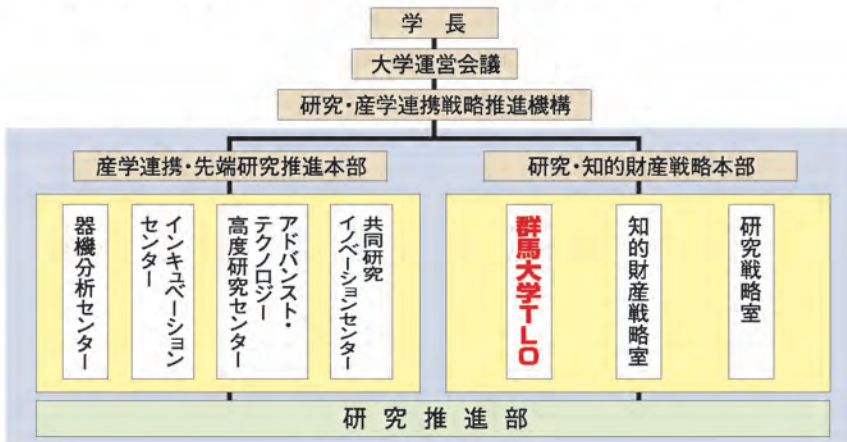


群馬大学TLOが入居するインキュベーションセンター（桐生キャンパス）

■TLO(技術移転機関)の業務概要



■群馬大学における研究・産学連携関係組織図



群馬大学TLOのスタッフ（手前左が大澤TLO長）

フリーペーパーづくりで 前橋の魅力を発掘

社会情報学部の有志14人が3月、前橋エンターテインメントフリーマガジン「Sayan」第2号を発刊しました。

コンセプトは「前橋の中心市街地に住んでみよう」。A4判、36ページの中に、生活者の視点から街の魅力を引き出そうという意欲がぎゅっ詰まった内容です。

14人のうち多くが県外出身者で、「初めて前橋駅に降り立ったとき、駅を間違えたかと思っただ」というスタッフもいる。「市街地はがらんとしていたけれど、お店の主人と話してみると、それぞれがものづくりに対するこだわりや熱い思いを抱えている。そんなこだわりを伝えることで、街に足を運ぶ人が増えてほしい」と語るのは代表の伊沢翔子さん(3年)。

巻頭で取り上げたのは、130年の伝統を持ち、どんなものでも修理するというこだわりを持つ「トヤマかばん店」と呑竜仲店通りの「ヤギカフェ」。ほかに「前橋こだわりコレクション」や「前橋こだわりのお菓子を探せ!!」「こだわり前橋辞典」、群馬ダイヤモンドベガス秦真二監督へのインタビュー、るなばあくなどのページで構成されています。企画、取材、執筆、編集、レイアウトはもちろん、手配りするなど配布にも力を注いだといいます。費用は社会情報学部が獲得した地域貢献重点経費を充て、来年3月には第3号を発行予定です。



「Sayan」のスタッフ



木立の中にたつむ北軽井沢研修所

すぽっと 散策

抜群の自然環境が満喫できる森林リゾート [北軽井沢研修所周辺]

森林に囲まれた閑静な大学村にたつむ北軽井沢研修所。元京都大学名誉教授で、日本を代表する哲学者・田邊元博士が退官後に移り住んだ田邊山荘を群馬大学に寄贈されたものです。

隣接する軽井沢の喧騒から離れた北軽井沢は、静寂がただよう森林リゾート。軽井沢のホテル経営者の中には北軽井沢を愛し、住み家を構える人もいます。うです。ゆったりとした気分で合宿するには最適ではないでしょうか。

周辺にある浅間牧場から見渡せる風景は、言葉に言い表せないほどの感動を与えてくれるでしょう。雄大な浅間山はもちろん、山麓に広がる樹海を一望することができます。もうひと足伸ばせば鬼押し出し園。浅間山をバックに奇岩が林立する様子は、ほかで味わうことのできない風景です。研修所の位置する大学村は1928年、法政大学の松室至学長が所有していた土地を大学の先生らに1坪1円で分譲したことに由来。以来、学術界をはじめとする多くの文化人が移り住んだことで知られています。

研修所は1組単位の貸し切り(少人数の場合は除く)利用が基本。1泊1000円は魅力的です。宿泊者は自炊することになります。周囲は新鮮な高原野菜の特産地です。朝採り野菜の直売所が点在しているので、合宿の楽しみの一つとなるかもしれません。なお、利用は5月1日～10月15日です。



研修所の周囲は散歩するにはもってこい



浅間牧場から見渡す絶景



新鮮な高原野菜が手に入るのも大きな魅力



奇岩が並ぶ鬼押し出し園

GUNDAI

大学遺産

Heritage

考古学界から注目される 尾崎コレクション

古墳時代を中心に縄文・中・近世期に及ぶおびただしい質量を誇る考古遺物・資料が群馬大学教育学部に収蔵されています。1970（昭和45）年に退官するまで戦前から27年間にわたり在職、日本の考古学界をリードした尾崎喜左雄博士が収集・調査したものです。

古墳時代では浅間山や榛名山などが古墳時代に3回、平安時代と江戸時代にそれぞれ1回大噴火しました。火山灰の中に何重にもわたって各時代の遺跡が封印された状態になっていたといえます。

古墳時代の群馬は上毛野君が君臨したと推測される先進地域。全国有数の古墳地帯としても知られていました。土器、埴輪、さらに埋葬施設から出土した副葬品など膨大な資料が収蔵されていますが、とりわけ貴重な遺物の一部は群馬県立歴史博物館に寄託されています。全長103センチに及ぶ「掛甲を付けた男子埴輪」や「三角縁神獣鏡」をはじめ貴重な資料が多数。

尾崎コレクションは早くから考古学会から注目され、強く公開が望まれていました。現在は分類・整理され、「尾崎喜左雄博士調査収集考古遺物・調査資料目録」（雄山閣）を作成。研究者らは収蔵物を見学することができます。また、総合情報メディアセンター図書館では、2009年4月のリニューアル時に収蔵物の一部を常設展示する予定です。



「掛甲を付けた男子埴輪」（「畏れと祈り」上毛新聞社刊より）



から工学部誕生への歩み



開校時の全景

織都桐生の繁栄を支え、色染、紡織の2学科で桐生高等染織学校としてスタートしたのが工学部の始まり。1915(大正4)年に創立、翌年に開校しました。その後、桐生高等工業学校・桐生工業専門学校に改称し、徐々に学科数も増え、設備も充実。戦中戦後の混乱期を経て、群馬大学工学部の誕生へと歴史は続いていきました。今回は、名門と謳われた専門学校としての35年の歴史と工学部として再スタートした1949(昭和24)年ころを中心に振り返ってみましょう。

悲願だった 高等教育機関

京都と並ぶ織物の街・桐生に高等工業学校の設置を望む声は、明治30年代からあつたようです。1896(明治29)年には桐生町立織物学校(後に県立)が創立されていきました。より確かな知識と技術力を持つ人材育成のため、「桐生に高等教育機関を」との考えは有識者の悲願となつていきました。

門学校設置に関する建議案」が1910年に帝国議会で議決され、予算案が正式に決定したのは1912年3月のこと。県や地元の大きな負担を想定した内容でした。地元有志の熱心な活動が続けられ、東京や関西方面を含む218もの個人・団体から寄附金が集められました。

天満宮北側の現在地に校舎建設も進められ、桐生高等染織学校が創立されたのは1914年12月。校長は米沢高等工業学校・大竹多気校長が兼務しました。翌年3月には172人の志願者を集め入学試験を実施。色染科15人、紡織科24人の計39人の一期生を迎えてスタートしました。開校時は教授7人、助教4人。

大竹・西田両校長の下、 名門への道を歩む

大竹校長は会津藩出身で武士道に徹した人物。厳格な規定を



啓真寮正門と学生

設けた全寮制を取り入れ、身体強壮と質実剛健の人格的技術者の養成に力を尽くしました。「士魂工才」という言葉も残っています。

当時の施設で今も残るのが同窓記念会館と正門と守衛所。ちなみに同窓記念会館は当時、講堂として使われていました。

第1回の卒業生を見ることなく大竹校長が病没したのは1918年。後を継いだ色染科長の西田博太郎教授は、談論風発にして外交手腕に優れた人物。1945年に退くまで、実に27年間あまりの長い歳月、校長として務めました。西田校長は単なる技術者の枠を超え、企業経営や組織面にも幅広い見識を持つ人材を産業界に送り込もうと考えたのです。

ご宿泊、ご婚礼に、ご宴会、お食事

ホテルメロポリタン高崎
〒370-0849 高崎市八島町222番地
TEL.027-325-3311(代)

135の業態なショップ 高崎モントレー
高崎ターミナルビル株式会社
群馬県高崎市八島町 222番地 TEL.027-324-0550

モントレーメルマガ 登録無料
会員登録中!!

高崎モントレーのイベントやクラブポイント情報、人気ショップの新着情報などをケータイやパソコンへいち早く配信。ショッピングがますます楽しく便利になります。

東和銀行の フリーローン・モア

お使いみちご自由

(他の借入金返済や事業性資金は除く)

最高200万円まで

(主婦・パート・アルバイトの方のご融資限度額は30万円)

**お申込カンタン・
FAXでスピーディー回答**



ふれあいバンク

TOWA 東和銀行

E-mail webmaster@towabank.co.jp
Homepage <http://www.towabank.co.jp>

2008年9月1日現在